

Gender Disparities in Quality of Life and Psychological Disturbance in Patients With Implantable Cardioverter-Defibrillators

ラハマワティ, アニタ

<https://hdl.handle.net/2324/1654708>

出版情報：九州大学, 2015, 博士（医学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（2）

(別紙様式2)

氏名	アニタ ラハマリテイ			
論文名	Gender Disparities in Quality of Life and Psychological Disturbance in Patients With Implantable Cardioverter-Defibrillators			
論文調査委員	主査	九州大学	教授	須藤 信行
	副査	九州大学	教授	神庭 重信
	副査	九州大学	教授	外 須美夫

論文審査の結果の要旨

主論文の主旨

埋め込み式心臓除細動器 (Implantable cardioverter-defibrillator: ICD) は、致命的な不整脈の予後を改善するため、ICD 埋め込み術が増加している。しかし、ICD を埋め込んだことによって心理的問題や QOL の障害が認められる。本研究では、ICD を埋め込んだ患者の性別によって生活や心理的な障害の出現に違いが生じるかについて検討した。心臓除細動器を埋め込んだ外来患者 (n=179; 平均年齢 60.5±15.9 歳; 81%男性) に、Short Form-8 (SF-8)、Beck Depression Inventory、Impact of Event Scale-Revised (IES-R)、State-Trait Anxiety Inventory、Worries about ICD から構成される質問紙を行った。SF-8 の結果では、女性の方が身体機能 (F15,157=4.57, P<0.05) や身体の痛み (F15,157=5.26, P<0.05) に関する QOL が障害されているという結果が示された。また、女性 (F15,157=5.37, P<0.05) の方が男性 (F15,157=6.62, P<0.05) よりもうつや不安の症状を訴えていた。さらに女性は心的外傷後ストレス症候群 (PTSD) を示す IES-R の数値が男性よりも高かった。ICD を埋め込んだ女性は身体機能、身体的痛みに関して QOL が低下していた。性別とうつ、ICD に対する不安や PTSD との間には重要な関連がある。女性の心臓除細動器を埋め込んだ患者は一層の心理的な介入が必要である。

以上の成績はこの方面の研究に知見を加えた意義あるものと考えられる。本論文についての試験はまず論文の研究目的、方法、実験成績などについて説明を求め、各調査委員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったがいずれについても適切な回答を得た。

よって調査委員合議の結果、試験は合格と決定した。